



会報 No.148 令和4年7月号

令和4年度 定期総会（リモート）報告

令和4年5月31日に定期総会をリモートで行いました。

リモート開催の為、司会担当の滝澤先生に開会宣言をしてもらいました。

石井会長にご挨拶を頂き、子ども家庭部保育幼稚園課より、保育士・幼稚園教諭等処遇改善臨時特例事業について説明がありました。また、園児のマスク着用についても説明がありました。1歳児受入促進加算、原油価格高騰に伴う対応について、調査のう え支援を検討していると説明されました。

滝澤先生より、出席園69、委任状12、計81園になり総会成立という報告をいただき開会しました。

そして第1号議案。令和3年度事業報告（案）が、会長、各部会、各研修委員会より報告を受け、ZOOMの投票機能により可決されました。

続いて、第2号議案。令和4年度事業計画（案）も可決されました。

第3号議案。入会資格及び協会名の変更（案）については、石井会長より「事業所内保育所からの入会希望や今後の認定こども園の増加を考慮し、入会資格の拡充と名称の変更が必要」というお話をいただき、賛成多数により可決されました。これからは「八王子市私立保育協会」になります。

第4号議案。定款及び会則の変更（案）についても、石井会長より説明があり、賛成多数で可決され

ました。

各団体報告を終え、新園長先生の紹介がありました。

- ・若葉の丘保育園 小田桐靖子先生
- ・光明第三保育園 早川葉子先生
- ・まつの木保育園 倭奈都子先生
- ・まや保育園 滝澤秀明先生

を紹介しました。

続いて永年勤続者表彰受賞者を紹介しました。リモート会議ですから、園名と名前だけの紹介になりました。本来ならば、石井会長から表彰状を頂くはずですが、表彰状は、後日、各園長先生からお渡しいただいています。

- ・松枝保育園 沢井良子先生 伏見史子先生
- ・南大沢保育園 岡田明日香先生 佐藤直子先生
- ・長房西保育園 中村浩子先生
- ・大塚保育園 高尾順子先生
- ・由木保育園 草刈恵子先生 小野佐知子先生
- ・船森保育園 村野照子先生 三上江利子先生
- ・さつき保育園 大洞幸世先生
- ・横川保育園 清水華子先生

の12名です。

受賞おめでとうございます。

最後に秦副会長より、閉会の言葉を賜り閉会しました。



2022年 健康・食育フェスタ報告



令和4年5月15日に狭間町にあるエスフォルタアリーナ八王子にて、健康・食育フェスタが開催されました。コロナ禍で2年間中止をしていましたが感染対策を施し行いました。

八王子市私立保育園協会、給食研究委員（栄養士）として参加し、敬愛フレンド内藤先生が中心になり、協会として1ブースをお借りして密を避けるためブースとブースの距離を取り、健康団体や食育団体の皆様と広い体育館で行いました。主に食育、保育園ってどんな食事をしているのかな？ また、どんな工夫をしているのかな？ と、委員の皆さんから意見を集い、パネル展示でレシピと写真を掲載し、QRコードで保育園のメニューを読みとれるようにしました。以下は参加委員からの感想です。

- 初めて参加したが思っていた以上に来場者が多かった。八保協のブースは素通りする人が多かったが、折り紙につられて立ち寄ってもらえた。
- 初めて参加して勉強になった。「次回はもっと〇〇したい」と来年に意欲を持っている。
- 前回の食育フェアを知っている人が園に居なかったため、ZOOMの打合せのときに前回の様子を見られるとイメージが沸きやすかった。
- 会場は予想以上に盛大だった。保育園の取り組みを知ってもらうために、集客を上げられるよう1年かけて案を考えたい。
- 事前に打合せを行い、各園がどの内容のパネル・レシピを作るのかアンケートをして下さったので、内容が重複せず、バランスよく活動を伝えることが出来た。
- QRコードを活用し、SDGsの取組も出来た。各園の食育活動を知ることが出来、学びが多かった。

コロナ禍で他園の先生方と関わることや食育活動を知る機会が少ない中、食育フェスタを通して知ることが出来た。他園の先生方と繋がる事が出来て嬉しかった。

- 人気があるブースや自分自身も楽しかった内容は、物もらえる、体験型のものだった。感染状況が許すならば、それらを取り入れると集まってもらいやすいように感じた。
- 他園の先生方と情報交換が出来たのはとても貴重な時間だったので、来年は当園の栄養士も是非参加させたい。
- 来場者が多かった。何か貰えるブースが混んでいた。
- 食育フェスタ自体2年ぶりの開催だったが盛大だった。
- 感染対策を取りながらの開催になり、これまでの形とは違ったため事前にイメージを伝えられなかった。

来年度に向けて、お金を掛けなくても折り紙がとても人気だったから、食材を折り紙で折ってプレゼントして、食への興味、発展に繋げることも出来る。また、ブースの中でスタンプラリーの様なポイントを作りゲーム性をもたせては。など意見がありました。

来年は、打合せの時期を早め見通しを立てやすくしたいと考えています。 (落合)



シリーズ 私の保育園

敬愛きたの保育園

園長 山田 寿恵

敬愛きたの保育園は、平成15年に京王線北野駅北口から徒歩2分のマンション1階に、3歳未満児20名定員の駅前認可保育園のモデルケースとして誕生しました。その後、就学前まで敬愛教育をとの地域の熱い要望に応え、平成23年より北野駅前のきたのタウンビル3階に、日本一大きい駅前認可保育園としてリニューアルしました。

「人を敬いすべてのものを愛しむ」という理念の基、五感をフルに使った遊びと経験を大切に、様々な保育活動を実施しています。今年度も5歳児年長組は、7月に高尾の森わくわくビレッジにて1泊2日の「わくわくキャンプ」に行きました。お友だちと一緒に探検をしたり、ツリーハウスで遊んだり、クラフト作りをしたり、お風呂に入ったり、様々な体験をしました。そして、キャンプファイヤーでは、火が付いた時のキラキラと輝いたお子さまの瞳がとても印象に残りました。キャンプを通して、お子さまはお友だちと協力しながら、自主性をもって積極的に取り組み、それが自信につながり、一人ひとりが大きく成長されました。このような感動体験や本物体験を大切にしています。

また、6階には園庭代わりとしての「スカイガーデン」（屋上遊技場）があります。ここでは、心も体も解放して遊ぶボディペインティングやプール遊び、縄跳びやかっこ、栽培活動なども行っています。今は、キュウリやピーマン、オクラなどを栽培し、年長組はお米作りにチャレンジしています。自分たちで育てたものを収穫して食べることは、食育活動の充実となり「命を大切にする力」を養うこ

とができます。

お天気の良い日には戸外に出かけて、フィールドワークを楽しんでいます。四季折々の自然の変化を感じたり、虫や草花を図鑑で調べたり、虫眼鏡で観察したりして、様々な驚きや発見をしています。また、捕まえた虫や採取した草花などを“ラボ”としてお部屋に飾り、学びを深めています。

室内には、お子さまたちのエネルギーが溢れ出す「敬愛キッズプレイランド」があります。走る・ジャンプする…空気の反発力を利用して、体中のバネが躍動する大きなトランポリン（エアートラック）やサイバーホイールをはじめ、鉄棒や跳び箱、ボールプールなど雨天でも集団や個人で遊べる大型遊具や玩具を完備しています。お子さまは主体的に様々な遊びをお友だちと一緒にに行い、「たのしい!」「うれしい!」「もっとあそびたい!」と笑顔いっぱい遊び込んでいます。

季節行事の他に、秋には「ハッピープレイデー（運動会）」、冬には「もものつどい（表現発表）」があります。お子さまの発達段階や年齢ならではの特性を踏まえた内容を検討し、集大成として発表いたします。「もものつどい」では、毎年5歳児クラスが創作ミュージカルを発表し、多くの感動に包まれています。

また、北野地域の「子育て支援の拠点」として、地域の方々への育児相談、保育所体験、季節の行事などの参加を受け付けています。現在はコロナ禍で直接来ていただくのは難しいので、リモートでの参加となっています。これからも、お子さま、保護者、地域の皆さまの笑顔溢れる保育園を目指してまいります。



1歳児 虫を見つけた



プレイランド

社会福祉法人月峰会 つくし保育園

園長 高橋 律子

つくし保育園は平成13年4月に開園し、設立22年目を迎える乳児保育園です。初めて出会うことが多い乳児だからこそ、そのひとつひとつにワクワク・ドキドキの心をたくさん動かしています。その中で一人ひとりが自分で考える、自分で選ぶ、自分から挑戦する…たくましい“生きる力”を持っていることに気づかされます。転んでもまた、立ち上がり歩行に挑戦し続ける0歳児の姿はまさに感動と驚きの連続です。自己主張が強くなってくる1歳児、夢いっばいの2歳児…個性豊かな姿をありのまま受け入れ、どんなことでも子どもたちにとっては意味があることとして見守っています。心に宿った安心感は大切な自己肯定感となり、一人ひとりが自信を持って歩んでいけるよう保育に全力を尽くしています。

つくし保育園は『絵本』を約3,000冊揃えている保育園です。この中には日常の子どもたちの仕草から発案された職員の手作り絵本が100冊ほどありま

す。『絵本』の読み語りを日々多く取り入れており、絵本が大好きになる子どもたちです。ゆったりと読み語りをする保育士の言葉かけや色鮮やかな挿絵から、思い思いにイメージを膨らませ、心豊かな感性が育っています。担任たちは子どもたちが好む絵本を選び、それを元に成長に合った楽しい劇遊び（表現遊び）へと展開し『つくしのつどい』でその姿を共有、共感しています。絵本の世界に浸り生き生きと遊ぶ子どもたちの姿に保護者、職員共々、大きな感動を感じるひと時であり子どもたちから「明日も頑張ろう」とやる気をもらっています。

コロナ禍で、家庭との繋がりが少なくなっている中、2022年度から日誌の画像配信を始めました。その日の出来事やお子さまたちの生き生きとした表情、集団の中での姿を保護者の方の携帯でご覧頂けるようになりました。子育て奮闘中の保護者の皆様にとって、ホッと心なむエピソードと写真の画像配信から“子育ては大変…でも楽しい!!”という想いが伝わり、これぞ、保護者支援だと実感しています。



編集後記

子ども達にとって待ちに待った夏がやって来ます。保育園では夏休みはありませんが、お盆の帰省等ご両親やご兄弟の夏休みに合わせた計画が進んでいる事と思います。本誌の進捗に合わせて夏がやって来るのが通年ですが、今年は季節に追い抜かれた感があります。ひと夏は気が付けば終わってしまっているなんてことも多いですが、楽しい体験をいっぱいして、よい思い出が溢れる夏休みを過ごすことが出来ればいいですね。（梅野）